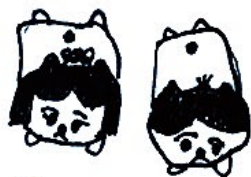


とよ・たち美肌通信

3月号 Vol.1.164

3月

ひな祭り



こころ

3 がっ

今月号の とびこち 美肌通信の表紙は
ひびまっぴり です。 音楽を聴いたり

歌や ダンスをするのが 好きなお女子が 描いて
下さいました。 桜の花が セラセラ 舞っていました。
みんなとっても 楽しそうです。 どんな音楽を
聴いているのかな、 今にも 踊り出しそうですね。
・ありがとうございます。

院長(おいぬ) スタッフ一同 に 心より感謝いたします。



フランスの諺に「Vent au visage rend l'homme sage.」というものがある。意識すると逆境は人を強くするという意味である。人生には困難 苦難 災難が常に付き纏う。これらは多くの人間にとっては不幸であることが多い。しかしこれらの事象がないことを無難といい、困難 苦難 災難がない人生のことを無難な人生という。だが人生において無難な人生を過ごしている人など誰一人としていない。つまり難はあって当然であり、難があることを「有難い」と言う。すなわち、困難 苦難 災難が起きたことを「有難し」と表現する。これは芸人コルゴ松本氏の言葉である。

中国南北朝時代の詩集である『^{もんせ}文選』に記されている言葉がある。「^{きりたつ}窮達は命なり。吉凶は人に^よ由る」、困窮したり栄達(高い地位や身分を得ること)に恵まれたりするの^よは運であり どうしようもないことだ。しかしその困窮や栄達を吉にするか凶にするかはその人次弟という意味である。

その窮達を吉にするために忘れてはならない心得があり、それが「艱難汝を玉にす」の一語である。先程の、人生に降りかかってくる困難 苦難 災難こそ、自分を磨くために天から与えられた試練と受け止めていく覚悟が必要なのである。自分をその様に高めていく過程には常に壁が立ちほたがるものである。

先に述べたゴルゴ松本氏と同じ事を説いている古典から一つ紹介する。「人艱難にあふ、これ不幸なるか。曰く艱難はまた事を経ざる人の良薬なり。心を明らかにし、性を練り、変に通じ、権に達する。まさにこの処にありて力を得」。艱難にあうのは不幸なことではない。これは人生経馬の少ない人の良薬である。艱難を経験することで、人は心を明敏にし性格を練り金段え変化に対応する知恵を身につけ物事を計画する力を養うことが出来る様になる。まさに艱難によって人は力を得るという。

真に突く言葉は古今東西不変であり受け取る者により、^{善人}善人に触れる人生の道しるべとなる言葉になるであろう。

院長、持